

会議録

会議の名称	第1回西東京市産業振興マスタープラン策定委員会
開催日時	平成21年9月24日14時30分から17時まで
開催場所	防災センター6階 講座室2
出席者	委員：板橋、奥田、水谷、櫻井、村田、海老沢、田中、本橋、斉藤 事務局：西東京市生活環境部産業振興課 大和田、森野、杉野 コンサルタント：2名
議題	1 開会 2 依頼状交付 3 委員自己紹介 4 事務局紹介 5 会長及び副会長の選出 6 議題 (1) 策定委員会の運営方法について (2) 産業振興マスタープランの策定について (3) 西東京市の産業・労働施策の現状と課題 (4) その他
会議資料の名称	資料1 西東京市産業振興マスタープラン委員名簿 資料2 西東京市産業振興マスタープラン策定委員会設置要綱 資料3 西東京市産業振興マスタープラン策定委員会傍聴要領（案） 資料4 西東京市市民参加条例（抜粋） 資料5 西東京市産業振興マスタープラン 第1回委員会資料 資料6 西東京市産業振興マスタープラン 第1回委員会参考資料 資料7 西東京市の産業支援策
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	

1 開会

名古屋生活環境部長より、開会挨拶

2 依頼状交付

各委員に依頼状が交付された。

3 委員自己紹介

各委員が自己紹介を行った。

4 事務局紹介

事務局及びコンサルタントが紹介された。

5 会長及び副会長の選出

委員本人からの申し出及び委員間の推薦等がなかったことから、事務局提案に基づき、水谷委員が委員長に、海老沢委員が副委員長に選出された。

6 議題

(1) 策定委員会の運営方法について

事務局説明 杉野主事

1. 傍聴要領について

○委員長：

傍聴要領について、案のとおりでよろしいでしょうか？

○一同：

異議なし

傍聴要領は、全会一致で案のとおり承認された。

2. 会議録について

○委員長：

会議録については、事務局提案の「(2) 発言者の発言内容ごとの要点記録」でよろしいでしょうか？

○一同：

異議なし

会議録は、市民参加条例 第4条に掲げる(1)～(3)のうち、「(2) 発言者の発言内容ごとの要点記録」で作成することが、全会一致で承認された。

○委員長：

また、会議録には委員の個人名は出さないということで、こちらもよろしいでしょう

か？

○委員：
慣例にまかせてよい。

○一同：
異議なし

会議録には委員の個人名は出さないということが、全会一致で了承された。

(2) 産業振興マスタープランの策定について

事務局

資料5により計画策定の目的、検討方法の説明

○委員：
コンサルタントの業務内容を明らかにしてもらいたい。

○事務局：
業務内容は計画の策定に当たっての資料収集、とりまとめ、議事録作成等である。検討方法については、委員会のご了解を得られれば、今回はワークショップ形式をとってはどうかということを、提案させていただきました。内容によっては、コンサルタントから説明させていただく場合があります。

○委員：
ワークショップで新しい芽はみつかるのか？国、世界、世の中、東京都の流れがどうなっているのかを受け、その中で西東京市がどうしていくべきかという検討ならばわかるが、現在の西東京市をみるだけ、商店街振興プランを見直すだけでは、新しい動きは見てこない。CO2マイナス25%を見据えて、新たなプランを考えるような取り組みが必要ではないか？

もっと大きな観点・広い視野で、ここを狙えば補助金がたくさんでそうだといい情報を探してきて、それを有効に活用するためのマスタープランでなければ、つくる意味がない。

なお、産業振興マスタープランがカバーする産業分野には、建設業も入れてもらいたい。

○委員：
このままのやり方で進めると、答えありきでいきそう。答えが決まっているように見える。

○事務局：
原案を出すやり方ではなく、皆さんに現場からの課題・問題、意見を出していただいて、その上で世界・国・都の方向を踏まえて、検討をすすめるというのが今回の提案で

す。たたき台ありきでなく、ワークショップを受けてたたき台をつくるという流れを考えています。

○委員：

農業振興計画の見直しは、本会議ではなく、別のところが行うと考えていいのか？

○事務局：

別途行っています。補足しますと、本西東京市では、マスタープランに先行して既に商店街振興プランと農業振興計画があるので、農業振興計画については、この見直しを踏まえてアクションプランに反映したいと考えています。一方、商店街振興プランは見直しを行っていないので、本委員会でも検討して、アクションプランに反映していきたいと考えています。

世界、国、都、世の中の動きをおさえ、この中で西東京市がどうあるべきかといったアプローチは、自治体の多くが採用しているやり方ですが、このやり方は、同じような計画になってしまいます。市の特性を生かした独自の施策（芽）と国・都の施策の両方からひもといていかないと、特色を生かした施策はつukれないという認識で、ワークショップという進め方を提案させていただいています。

○委員：

一般的な商店街振興プランなどでは、現状把握からすすめるというのもいいが、全分野をカバーする産業振興プランである以上、産業をとりまく状況・政策は踏まえざるを得ないと思う。国の政策が行き詰っていることもあり、産業政策はかわりつつある。都を介さずに、国が示す方向に向かって自治体が直結して取り組むという流れになってきているので、大きな流れを踏まえながら、芽を探すとよい。

地元ではなかなか芽を探せない。いろいろな分野のみなさんが話していく中で、連携などのアイデアがいろいろ出てくるかと思う。ただ、大きな流れの確認もないと、産業振興プランとしては耐えられないのではないと思う。

○委員長：

行政から行政資料を、コンサルタントからも大きな流れに関する資料を出していただければと思います。

○委員：

私もいろいろ資料をもっているのですが、ご活用いただきたい。

○委員：

おまんじゅうの皮を産業振興課がつくり、コンサルタントがあんこ（計画の中身）を作っているように見える。逆であってほしかった。

コンサルタントが既に路線を敷いてしまっているというのであれば、先に教えてほしい。

○事務局：

それはない。

○委員：

あんこはまだできていない。

○事務局：

資料を見ていただくと、あんこの部分はありません。あんこをつくるための案については、委員の方から意見をいただきたいと思っています。今回は手法を提案させていただいているだけです。

○委員：

西東京の委員会も、お膳立てされたものの上に乗るとい形ではなくなりつつあるので、お膳立ての上で踊るのであれば、ばかげている。それが感じられたので、すごいやだということ。

○委員：

場を提供するだけで、商業者も農業者も商工業者も入っていたので、総意ですよ！といわれるのではないかと懸念される。

○委員：

コンサルタントが入ると、そうなりがちだ。

○委員：

委員でやってみてダメだったら実現しない。絵に描いたもちになる。やれるようなことでまとまったら、それでいいというスタンスでやればよい。

○委員長：

それもこの委員会で決めていただければよいと思っています。

○委員：

例えばといいつついろいろと書いてあるのが、既に線路に見える。

○事務局：

検討方法については、各分野のかたがたがこの席で話し合ってくださいことで、何か生まれてくるのではないかと考えて提案させていただいています。この方法でやるというのはあくまでも提案なので、それ以外の方法も含めて、どう進めるかご意見をいただければと思います。

○事務局：

今回は手法を提案しているだけです。これについて、ご意見をいただきたいと思いません。

○委員：

こういうやり方で、本当にいい芽がでてくるか？いまの産業を取り巻く話でいうと、各産業について、どういう動きがあるか？それに関して市内ではどういう動きがあるか

ということを整理しておいた方がよい。ワークショップだけでやっていくと、あるものをブランド化するというだけで終わってしまうのではないか。

○委員：

大きな方向性に関する情報を共有しておかないと、まとまるものもまとまらない。例えば政府が打ち出したCO2削減の方向。これを踏まえると、飲食業もごみの削減をしないといけないかなと思う。大きな方向性を決めた上で、枝葉の分野を定めていかなくてはいけないのでは？柱を先に決めておく方がよい。それとも走りながら柱を決めるのか？

○委員長：

これから2年間考えていく中で柱を決めていくというやり方もあるかと思いますが。

○委員：

3ページにいろいろな計画が示されているが、これについてはみなさんご存知か？かいつまんでガイダンスを受けたい。

○委員長：

計画についてうかがう機会がありますか？

○事務局：

資料には計画の概要を載せているが、特に説明する時間はとっていません。ただ、商店街振興プランについては、進捗状況の確認もあるので、時間をいただければ説明させていただきたいと考えています。なお、個々の計画については、資料の6に体系を載せています。

○委員：

冊子は資料室で閲覧できるのか？

○事務局：

必要であれば、こちらで用意できます。情報公開コーナーにもあります。インターネット上にもでています。また、本日、会場にも並べています。

○委員：

農業振興計画の見直しでは、東大農場（22ヘクタール）が問題となっている。いまの農業振興計画を策定したときは、東大農場は移転するということだった。そのため、移転後にそこをどう利用するかという視点で振興計画を立てていた。その後、移転がなくなったので、西東京市の農業振興についての協力を得たいと考えている。

しかし、東大農場がどう考えているのかがわからない。市民側からはアクションをとれないので、議論の前に行政から東大にヒアリングしてもらいたい。聴かないと、こちらで計画しても実現性があるかどうかわからない。売却する部分について農商工で活用を考えるなどにしても、東大が考えている方向性に関する情報がない。

○事務局：

移転計画がなくなり、市内の大切な資産なので、この活用は大きな課題です。市のまちづくり部門との整合も図りながら、提供できる情報は提供したいと思います。

○委員：

西東京の土地は国土交通省管轄なので、農地がどうなっていくのか予測がつかない。

○委員：

都市計画道路の整備もあり、農地の減少率は振興計画での予測を上回っている。しかし、一般的にいわれる市街化調整区域の減少率を少し上回る程度で、想定範囲内である。

○委員：

農地が農地でなくなったときの手当ては、個人にまかされているのか？

○委員：

あくまでも個人だ。買い取り請求を出されても、市には買うお金がない。

○委員：

ないとしても、農地対策が計画の中に入っていかなければ、都市計画なんてできないのではないかな？

○委員：

多摩で一戸当たりの農地面積が大きいのは、練馬と旧保谷。農業収益がなくても不動産収入で補っているのが現状で、相続が起きたときに手放さなくてはならなくなる農地も多い。規模が大きければ大きいほど、相続が始まったときの減少率が大きくなる。

○委員：

就農年齢から見て、数年内に相続が発生することが明らかだが、このことに対し、市は何らかの手当てをしているのか？

○委員：

ほうれんそう、小松菜、キャベツの生産量が多いからと、例えば「めぐみちゃんギョーザ」をつくったとしても、数年内に農地が減少し、農産物がなくなってしまうらどうなるのか？この先どうするのか？方向性を考えなくてはいけない。

○委員：

ハウスができて花屋が増えているのは、ハウスの補助金があり、東大農場で花の研究をやっているためかと思ったので、それであれば、商店街のお祭りのときにお花を売って、西東京市を花のまちにするのかな？と思っていた。都や国の方向性を調べてもらって、西東京市はこれが一番あっているというものを提案してもらえるとよい。

○委員：

皆さんそれぞれ断片的に知識をもっているので、ワークショップというのをやって、農業の情報と、商業の情報と都市計画の情報とそれぞれ出し合って話をしていけば、何かでてくるかもしれない。それにかけるという手もあるのでは？

○委員：

それにしても、それぞれの分野の国の方向性がわからないと....。こういう補助がありますよとか、示してもらいたい。市にはお金がないので。

○委員：

補助金検索コーナーをつくるのが一番の産業振興だったりして。

○委員：

政権が変われば補助金も変わる。スタートダッシュのときの補助金というのは既にあるし、今年新しい商店街の補助金制度もできたが、西東京市では使われていない。みんなで一緒にいろいろ話合ってみれば、これとこれを組み合わせて、その設備を工業部会でつくってみるかとか、アイデアが出てくるのでは？

○委員：

ものづくりでも農商工連携などの動きがあるので、基本を押さえておく。みなが専門的な知識を出し合うことで、そこに気づきがあり、そこから、いいものが出てくればいい。その方が前向きでいい。

○事務局：

ワークショップ形式はやってみてもいいが、その前提として、国や都などの大きな方向性を押さえて、みなが情報を共有することが必要だという認識ということでしょうか？

○委員長：

次回までに情報が出てくると、議論が活発になってよいと思います。

事務局

資料6により西東京市の産業・労働施策の現状と課題を説明

○委員：

商工会には福祉等の事業者は含まれないが、福祉・医療は産業に入るのか？

○事務局：

入るものと考えている。

○委員：

入るのなら、商工会でも入れる方向で考えなければいけないかと思う。

○委員：

商業集積地のデータが平成14年というのは古いのではないか？あそこから、商店街も大きく変わり、東京都も商業集積地のデータを出していない。かつては力を持っていたというのは事実だが。東京都の一人当たりの商業販売額は通勤者も含めての数値なので、流出率の5割はそう悲観的な値ではない。市内ですべての商業サービスを提供しようとするのではなく、近くの商業地とうまく役割分担すればよい。

○委員：

中心性指標は出さない方がよい。50%以上が市外に流出しているというのは誤った認識だ。東京都には外国人も地方の人も買い物に来る。実感からしても、練馬から保谷駅前に、東久留米からひばりが丘駅に流入している。家計調査と商業統計からみると、西東京は外部から流入だと思う。

○委員：

伏見通りまちなかサロンは、市や大学が係わっていた当初2年間はよかったが、今は状況が違うので差し替えるべき。

○委員：

西友等に農産物のインショップにあるが、軒先の方が安いのでわざわざ店では買わない。また、軒先に出す農家と市場に出す農家は、経営状況が大きく違う。食育などの観点からいうと、市民農園を市民でなくても他区の人に開放してほしい。

○委員：

体験農園（市周辺部）では練馬区などの方も利用している。ただ、練馬区の方が西東京市よりも市民農園の数は多い。毎年、1軒以上開設されているので、自分の地元でも利用できる。西東京市の農園も市外の人には利用できないということではない。

市外の人でも利用できる。ただ、数が限られているので、一義的には市内在住者となっている。市民農園の推進は振興計画でもうたっているが、園主が主体的に行う体験農園は推進するとしても、市民農園・家族農園についてはおすすめしない。

東大も採算を考えなければいけない状況なので、東大農場の一部を体験農園のように利用してはどうかと東大に提案したことがある。生産緑地でできる経営形態なのでよいと思う。

○委員：

農地法改正により、「所有者が自らの耕作」から「広く利用する」に変わった。農地所有者が一般の方に広く利用させるという方向で、納税猶予農地の利用形態も多様化するのではないかと思う。さらに都市計画法の改正もあり、その中で生産緑地の位置づけも変わる可能性がある。これらについては、あと2～3年、動きをみる必要がある。

○委員：

遊休農地対策としては、かつて西東京市で行われた麦づくり体験なども有効だった。

○委員：

例えば、5年後には学校給食で使う野菜の50%以上を市の野菜でまかなうといった計

画を立てることはできないのか？

○事務局：

産業振興と結びつけられればいいと思う。

○委員：

文部科学省でも学校給食の野菜は50%を地元の野菜にすべきという方針を立てている。西東京でもずいぶん給食に地元野菜を入れているが、農業側の事情もある。

○委員：

産業振興課と教育委員会の管轄の問題で、横のつながりがよくない。現在は個々の農業者が教育委員会と契約する形なので、産業振興課がそういった考えを持たないと、農家の立場は弱いので難しい。農業委員会の考え方もある。食育も教育委員会が音頭をとらずに、企画課がやり始めたような状況がある。教育委員会側にそういった考え方がない。

○委員：

だからこそ、この機会にやってはどうか？

○委員：

大きなテーマだと思う。仕事が少なくなって困っている運送業者も多くいる。

○委員：

現在、キャベツは市場型・出荷型だが、今後高齢化が進むと、こういった経営は縮小方向になる。地産地消の推進は産業振興の課題だと考えているので、できれば計画の中に入れてほしいと思う。

○委員：

学校給食については細かい問題もあり、ここで扱うのは難しい。

○事務局：

地産地消は、フードマイレージなどCO2削減にもつながるもので、よいことだと思っています。

○委員：

教育委員会の考え方次第のところもある。

○委員：

商店街の現状と課題は、駅前商店街に生鮮三品が皆無に等しいということ。近年では豆腐屋さんもなくなりつつあり、スーパーに頼っているのが現状だ。今後スーパーがなくなると、買い物ができなくなってしまう。

チャレンジショップ事業が空き店舗対策となっていていいが、現在は、年間2件しか対象になっておらず、募集期間も短いので、もう少し充実してもらいたい。物品販売の

商店が少ないので、できれば物品販売だけ募集期間に猶予があるといった策もほしい。

○委員：

現在の3件のチャレンジショップのうち、2件が飲食。物品販売はない。

○委員：

去年は応募ゼロ。枠の増加を要請したいが、応募がない以上、要請できない。

○委員：

募集期間が短いことが問題なので、工夫が必要だ。

○委員：

駐輪場が足りないが、つくればつくつたで、歩行者の通るところを自転車が通過し、歩行者の邪魔になるという状況が生ずるといったことも起こる。たくさん買う人向けに、やはり車を利用してもらえる方がいいという意見も出始めており、どちらに向かうのがいいのか、判断が難しい。

○委員：

全体として、ここにある捉え方は間違っていないので、今後、検討を積み重ねていけばいいだろう。

○委員：

国体対応で体育館を改修するという話を聞いた。体育館だけだと今後の利用が伸びないと思われるので、公式利用もできる50メートルプールを備えたものにするとういだろう。

(4) その他

1. アンケートについて

○事務局：

アンケートやヒアリングについて説明。

○委員：

アンケートにこだわることはなく、項目に沿って聴けばいいのではないかと？商店街振興プランの評価というのはできるわけがない。それよりも、説明するような形で委員のみなさんからお話をうかがえばよいのではないかと？枠にはめてまとめようとするとう無理が生ずる。

項目があるということは、アンケート項目の1から4でまとめようとしているように見える。みなさんそれぞれの分野から出てきているので、まとめようとしても無理がある。むしろ、こういう項目を題材にしつつ、専門の分野について聴いてまとめる方がいい。その方が検討の素材としていいのでは？項目はおかしくないが。

○委員：

このアンケートを委員一人ひとりが書くのか？

○事務局：

質問の内容は別として、アンケートを書いてもらいたい。

○委員：

2の「今おきていること」は、質問すべき問題ではなく、産業振興課が説明すべきことなのではないか。近年西東京市の産業はどうか変わってきたかは市が説明すること。

○委員：

例えば、商業出荷高や農業出荷高など、市はデータを持っているので、それを一覧表に出せば、こんな項目をアンケートする必要はない。4番の商店街振興プランについても、進捗を市は把握しているはず。商店街振興プランについて、どういう項目があって、どこまで進んでいるかは、委員にはわからない。

○事務局：

商店街振興プランについては、どういう項目があって、こういうことを行っているという別表をつけて行いたいと考えています。

○委員：

ならば、それでできてしまうのではないか？

○事務局：

市側の評価と委員の評価との違いもみてみようと考えています。

○委員：

項目は主観的に判断できるようなものさしになっているのか？

○事務局：

商店街振興プランについては、それぞれの施策項目について、できたものとできないものがあるので、それをお示しした上で、市としてはこういう成果があがったと考えているが、各委員はどう評価されていますかとおはかりすることで、課題や問題点を把握したいと考えていました。現在の状況はデータでもわかるが、実感として、みなさんが西東京市でどういうことをお感じになっているのかをうかがいたかった。

○委員：

1番と3番は書きたいこともあるが、2番と4番については、むしろ産業振興課からレクチャーを受けたい。

○委員：

2番は近年どうか変わってきたかという表現がいけないのであって、それぞれがそれぞれの分野で活動される中で、最近どうも変わってきたなとお感じになることがあるかたずねたいのだろう。

- 委員：
書いてあることが言っていること。書いてある以上のことは判断できない。
- 委員：
でも、そういうことを言いたかったんですね？
- 事務局：
はい。
- 委員：
ならば、そう書くべきだ。
- 委員：
最近5年間の状況などの動きは示してもらえるか？
- 委員：
例えば、4番の商店街振興プランですが、これはプランそのものの評価であって、進捗具合の評価ではないのではないかと。
- 事務局：
アンケートの項目については、本日いただいたご意見をもとに、見直したいと考えています。それぞれの分野以外のことについて書くことは難しいとも思いますので、それぞれの分野ごとに感じていることを率直に書いていただくことも考えています。
- 委員：
産業分野ごとに内容もおきていることも違うので、もう少しきめ細かく項目を立てただけだと答えやすい。文章で書くととなると、何を書けばいいのかわからない。振興プラン自体知らなかったの、教えてもらいたい。
- 委員長：
アンケートについては再度ご検討ください。
- 事務局：
できれば2回目の委員会はアンケート結果を踏まえた内容としたいので、アンケート案については、委員長・副委員長に一任するというところでよろしいでしょうか？
- 委員：
アンケートなので、書けないところは書けなくてもいいと思うので、やってもらうこと自体はいいと思う。
- 委員：
西東京市の産業は最近数年でこう変わってきたというデータをつくってもらいたい。これを示してもらえば感想は書ける。産業振興プランについては、21年度の目標値を書

いて、実績を書いて、それについて感想を述べよというなら述べる。

○事務局：

進捗は出させていただいて、感想をうかがうということで考えていました。

○委員長：

ご意見を反映させていただいて、アンケートを行うということでお願いいたします。

○事務局：

ヒアリングについても、アンケートと同様の内容をうかがうことで考えている。

○委員：

委員へのアンケートはこれでいいと思うが、商工会などへのヒアリングは、聞きたいことをもっと明らかにして実施した方がよいのではないか。

○事務局：

何のためにやるのかを明らかにした上でやるのが望ましいので、ヒアリングについては、次回議論していただいた上でやることにしたいと思います。

○委員：

ヒアリング先には東大農場もいれてもらいたい。

○委員：

ヒアリング結果を報告書にまとめてしまうと、ヒアリングの場での細部のニュアンスがわからなくなるし、言おうとしていることが逆にとらえられてしまうこともある。なので、委員の方にもヒアリングに同席してもらうことが望ましい。そうすれば、委員会で細部についてみなさんにお伝えすることができる。

○委員長：

その辺もあわせてスケジュール調整をお願いします。

○委員：

本日の資料の中にあるように、西東京から消費が流出しているの、よその市から西東京にお客さんを呼ぶことを最も重視すればよいと思う。よその町から買いにきてもらうことがまちを豊かにすること。昔の田無は吉祥寺、所沢に匹敵する購買力があつた。その後、田無は立ち遅れてしまった。よそからのお客さんの減少が原因だろう。どうやってお客さんを呼べるかを解決できれば、あとはついてくる。市が車でいっぱいになるなら、駐車場を立体化するなど考えられる。市の外からお客さんを呼ぶ方法を考えることが、市の発展には一番早い方法だろう。

○委員長：

次回、参考資料の要点を説明していただければと思います。

○事務局：

次回に再度ご説明いたします。合わせて国・都の動きも説明いたします。

○委員：

今回は事前に資料を送ってほしい。

○事務局：

1週間前をめどに資料をお送りしたいと考えています。また、次回の内容は、市の状況、国・都の動きとアンケートからみた課題整理と考えています。

日程調整 委員間で話し合い

○事務局：

今回は11月16日（月曜日） 遅めの時間で調整させていただきます。